

戦後七〇年記念号刊行のごあいさつ

平成二十七年は終戦から七〇年の節目の年にあたります。

昭和館では「戦後七〇年」をテーマに掲げ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展を開催し、多くの方々に見学していただきました。また記念事業として、類似施設のしゅうけい館、平和祈念展示資料館との共催で、東京日比谷、長野市、和歌山市で体験者らによる講演会を行い、これにも多くの方に参加していただきました。

このように「戦後七〇年」の関心が高いなかで、本誌においても企画段階から特集号にすることを念頭におき、昭和館運営専門委員の赤木完爾、鈴木淳両先生に執筆をお願いし、それぞれの専門分野の視点からの玉稿を載せることができました。昭和館職員には、日頃の職務の中から終戦の昭和二十年前後の国民生活に関連する研究成果を発表してもらいました。執筆していただいた先生方には感謝申し上げますとともに、館職員にはいつそうの飛躍が期待できる内容になっていると思われれます。

「戦後七〇年」で戦中・戦後の日本の状況について関心が高まった一年でしたが、多くの人びとが命の危険や肉親を失った哀しみ、そして生活などさまざまな面でご苦労されたことを後世代に伝える当館の使命は今後も続きます。本記念号の各論稿から戦争や平和について考え、そして研究面でも深めることができることを願っております。

平成二十七年十二月

昭和館

館長 羽毛田信吾